

住んでいて良かった、これからも住み続けたい まちづくりを目指して

－ 第八次総合計画基本計画見直し素案がまとまりました －

市では、まちづくりの指針となる第八次総合計画基本計画（平成27年度から令和6年度までの10年間）の見直しを進めており、このたび見直し素案がまとまりました。

総合計画の見直しにあたっては、統計調査などの各種データや社会潮流の把握、分析のほか、市民アンケートや市民との意見交換を通じて今後のまちづくりに関する様々なご意見・ご提案をいただきながら進めてきました。

今後は、見直し素案に対する市民意見募集や総合計画審議会を経た後、議会上程することになります。

人口減少、少子高齢化が進む中においても、将来に渡って、「住んでいて良かった」「これからも住み続けたい」と思えるようなまちを目指して、引き続き、市民の皆さんとともに取り組みます。



総合計画とは・・・

総合計画は、将来における市のあるべき姿と進むべき方向性について基本的な指針を示すもので、市の最上位計画として市政運営の最も基本となる計画です。

●計画見直しのポイント

①まちづくりの方向性の明確化

市民の皆さんに分かりやすく、共有できる計画となるよう、分野の枠組みを超えた横断的な視点を持って市が進めるべきまちづくりの方向性を示すとともに、戦略的かつ重点的に取り組むことを明示することとしました。



②長期的な視点

将来の人口などを踏まえた長期的な視点を持ちながら、計画期間の後半5年間で進めるべき内容を示すこととしました。

③地域ごとのまちづくりの方向性

まちづくり協議会単位で地域のまちづくりの方向性を示すこととしました。

●将来の高山市の人口は？

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本市の人口は、平成12年の97,023人をピークに減少を続け、平成27年に9万人を下回り、30年後（令和27年）には約6万3千人となることが見込まれています。

年齢区分別人口の変化（平成27年～令和27年）を見ると、高齢者人口はほぼ横ばいであるのに対し、年少人口や生産年齢人口は約4割の減少が見込まれ、社会保障費の増加や産業、地域コミュニティへの影響が懸念されます。

